



【目指す児童像】

自分が好き 友達が好き 学校が好き 東谷が好き

【統一理念(コンセプト)】「やる気」「根気」「負けん気」

人権週間が始まります

1948年12月10日、国際連合総会において「世界人権宣言」が採択されました。採択日である12月10日は、「人権デー (Human Rights Day)」と定められています。法務省では、毎年、12月4日～10日を「人権週間」とし、全国的に人権啓発活動を行い、人権尊重思想の普及高揚に努めています。世の中に存在する様々な人権問題を、私たち一人一人が自分以外の「誰か」のことではなく、自分のこととして捉え、互いの人権を尊重し合うことの大切さについて、認識を深めることが、問題の解決に繋がります。そこで、啓発活動重点目標を「『誰か』のことじゃない」としています。(法務省ホームページ 参照・引用)

「人権」は、私たち一人一人が等しくもっているものです。誰もが社会の中で、自由に考え、行動し、それぞれの幸せを追い求めることができる権利だと考えます。そして、どの人の「人権」も守られていることが当たり前です。

次の話は、新聞の投稿欄に東京都の中学生が寄せたものです。

あるバス停で松葉づえの人が乗車してきました。その人は乗車するのに時間がかかってしまい、「すみません、時間がかかってしまって」と申し訳なさそうに何回も言いました。

すると、運転手さんは「大丈夫ですよ」と優しく言いました。周りの乗客もその人に向かって笑顔でうなずいていました。

僕はその優しい空気感に感動しました。人が誰かに優しくするのを見たら、周囲の人も優しい気持ちになると知りました。人の温かさにふれ、僕も優しい人になりたいと思いました。

今回体験したような出来事が多くの人に起きればいいなあと思います。

(2024.11.18 読売新聞朝刊より)

この話を読んで、皆さんどのように感じるでしょうか。「松葉づえをついている人は、大変だろう。だから待ってあげよう。」という「やさしさ」や「思いやり」があって、バスの乗客は待ってくれたのでしょうか。一方で、「人権」という面から考えると、この松葉づえをついた人には「バスに乗って行きたい所に行く」権利があるのです。だから、このバスの運転手や乗客は、松葉づえをついた人の「人権」を守ったことになります。一人一人が大切な存在だと認識できていれば、相手の状況を理解した上で、どのような行動(この投稿では、運転手や乗客が笑顔で待つという行動)が望ましいのか考えることができるのだと思います。

しかし、世の中ではいまだに、「人権」が守られない行為や偏見・差別によって、悩んだり苦しんだりしている人もいます。目の前にあるのに、気付きにくい差別もあります。もしも、自分や家族・友達など身近にいる大切な人が、そのような苦しみの中にいたら、どう感じるでしょうか。「想像力」や「共感力」を働かせて、自分とは異なる立場に立って考えることが、「『誰か』のことじゃない」という目標の達成につながります。

新道寺小学校では、12月2日(月)～6日(金)を校内人権週間とし、子どもたちの人権にかかる作品を紹介したり、それぞれが大切な存在であることを考える放送や学習をしたりします。上記のバスでの出来事のような「やさしさ」や「思いやり」があふれる世の中をつくることができる子どもたちを育てるだけでなく、「差別をしない」「差別に気づく」「差別を解消するために行動する」当事者を育ててまいりたいと考えています。また、私たち教職員も、心のアンテナを高くして、一人一人の子どものよさを見つめながら、人権を尊重する人間であるよう、学びを深めてまいります。

